

謬。何須致疑。是故結曰。正在茲乎。又云。初引華嚴者。重牒初引示境相文。前云。心造即是心具。故引造文以證心具。彼經第十八中。如功德林菩薩說偈云。心如工畫師。造種種五陰。一切世間界中無法而不造。如心佛亦爾。如佛衆生然。心佛及衆生。是三無差別。若人欲求知三世一切佛。應當如是觀。心造諸如來。不解今文如何。消偈心造一切三無差別文。恐恐謹言。

諸宗之是非以之可糺明之也。

二月十八日

日 蓮花押

九七 草木成佛口決

問云。草木成佛者。有情非情中何哉。答云。草木成佛者。非情成佛也。問云。情非情共於今經成佛乎。答云。爾也。問云。證文如何。答云。妙法蓮華經是也。妙法者有情成佛也。蓮華者非情成佛也。有情は生の成佛、非情は死の成佛、生死の成佛と云が有情

【系年】文永九年二月二十日
 (51) 【寫】本滿寺本 【刊】
 外 13₁₄ 遺 12₄ 縮 745 【註】
 考 449

①境相=現圖 ②[問]一圖 ③第24紙5行④

非情の成佛の事也。其故は我等衆生死する時、立^ツ塔婆^ツ開眼供養するは死の成佛にして草木成佛也。止^ル觀^ニ一^ニ云^ク一色一香無^レ非^ニ中^ニ道^ニ。妙樂云^ク然^レ亦^レ共^ニ許^ニ色^ニ香^ニ中^ニ道^ニ。無情佛性惑耳驚心。此一色者五色の中には何れの色ぞや。青黄赤白黒の五色を一色と釋せり。一者法性也。爰を以て妙樂は色香中道と釋せり。天台大師も無非中道といへり。一色一香の一は二三相對の一には非る也。中道法性をさして一と云也。所詮十界三千・依正等をそなへずと云事なし。此色香は草木成佛也。是即蓮華の成佛也。色香と蓮華とは言^ハは^カは^レれ^ドも草木成佛の事也。口決云^ク草にも木にも成る佛也云云。此意は草木にも成り給へる壽量品の釋尊也。經云^ク如來祕密神通之力云云。法界は釋迦如來の御身に非ずと云事なし。理の顯本は死を表す、妙法と顯る。事の顯本は生を表す、蓮華と顯る。理の顯本は死にて有情をつかさどる。事の顯本は生にして非情をつかさどる。我等衆生のために依怙依託なるは非情の蓮華がなりたる也。我等衆生の言語音聲生の位には妙法が有情となりぬるなり。我等一身の上には有情非情具足せり。爪と髮とは非情也。きるにもいたまず。其外は有情なれば切にもいたみ、くるしむなり。一身所具の有情非情也。此有情非情、十如是因果の二法を具足せり。衆生世